



2021年12月3日
エスペック株式会社

2021年度(2022年3月期)第2四半期決算 主な質問と回答

- Q. 受注が好調だが、けん引している市場やエリアはどこか。
- A. 装置事業の環境試験器の受注高が前年同期比で大きく増加した。市場では、5G・IoT 関連を中心にエレクトロニクス市場が好調に推移し、前期投資が抑制された自動車市場も回復している。エリアでは中国、北米がけん引し、日本、欧州、東南アジアも回復している。
- Q. 売上高が前年同期比で微増にとどまっているが、部品調達難による影響・対策は。
- A. 世界的な電子部品不足の影響を受け、製品納期が長期化し、売上高の拡大につなげることができなかった。プロジェクトを組み、代替調達や設計変更など対策を講じている。お客さまに丁寧に説明し、できるだけお客さまの事業に支障をきたさないよう全力で取り組んでいる。
- Q. 販管費が前年同期比で増加した要因は。
- A. 事業環境の回復に伴う受注活動の拡大により諸経費が増加した。
- Q. 下期の見通しは。
- A. 部品調達の先行きは不透明で長期化の懸念もあるが、受注は好調であり、日本・中国・米国の工場において増産体制を整え、通期予想の達成を目指していく。
※通期受注高については8月公表の442億円から508億円に見直しています。
- Q. 中期的に事業環境をどう見ているか。
- A. 部品調達難の長期化や中国経済の減速、感染症拡大など先行きに懸念はあるものの、当社の環境試験器は5G・IoT、自動車の電動化・自動運転など先端技術の実用化に不可欠であり、中期的には今後も需要が高まると見ている。グローバルに拡大を目指していく。

本資料は、決算に関する主な質疑応答の要旨を記載したものです。

本資料に含まれる将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに当社が計画・予測したものであり、実際の業績などは今後の様々な条件・要素により異なる場合があります。